

学校の教育目標

〈児童と教職員が共にめざす姿〉

自ら学び合い 仲間と共に やり抜く児童の育成

現状と課題

【生活面】

- 学校はたのしいと感じている児童90%
- 就寝時刻が遅い児童、遅刻のある児童
- 気持ちの伝え方や友だちとの関わり方が苦手な児童 【自己有用感を持ち、認め合って楽しく生活するための考え方や行動力の育成】

【学力面】

- 基礎基本の習得ができていない子どもがいる
- 複数の領域にまたがった問題で筋道を立てて考えたり条件に沿って言葉や式を用いて解き方や考えを記述する力の不足
- 【情報・根拠を整理する能力・表現力の育成・活用問題の量や時間意識の改善】

重点目標

I, 仲間と共にやり抜く児童の育成

- ①時間やきまりを守って生活していく態度と習慣
- ②多様性を尊重しお互いの良さを生かして協働する
- ③健康・安全に気をつけ運動を楽しむ習慣
- ④集団の課題に気づき解決に向かって行動する力

II, 自ら学び合う児童の育成

- ①自己の課題に気づき進んで学びに取り組む
- ②基礎基本の習得と活用力の育成
- ③わかる・できるを保障する授業
- ④他者と対話的に学び合い自己や他者を尊重する力

チーム沖代

教職員の構え

変わり続ける教職員集団

学年・分掌（チーム）で協働する。

- 全教職員で課題を共有する
- めあてを決めチームで育てる
- チームで課題解決に取り組む。「一人で頑張らなくていい」安心できる集団
- 達成状況を評価し改善し続ける

日々の授業（PDCA）校内研究による授業改善

- 授業力を磨きあう（内にも外にも開いた学校）
- 「教えてほめる」指導。教職員がモデルに（冷たくない「厳しさ」と甘やかさない「優しさ」）
- 人権意識を磨き、児童・保護者・地域の方からの信頼を得る

重点目標を支える教師の日々の実践

【児童理解】

- ①児童の声に耳を傾ける
- ②児童と共に動く
- ③努力・成長をほめる
- ④特別支援教育の視点
- ⑤コーチングの視点

【学力の充実】

- ①組織的な補充指導と活用問題への取り組み
- ②誰もが活躍できるユニバーサルデザインの授業
- ③自ら学ぶ学習、自ら学び合う授業への転換

【豊かな心の育成】

- ①読書の充実
- ②人権学習、道徳、SSTの工夫
- ③めあてを明確に持たせた体験活動
- ④「ひと・もの・とき」を大切にする学校

【地域・保護者との連携】

- ①日常的な連絡・家庭訪問等
- ②通信、HPによる情報発信
- ③ゲストティーチャー・サポーターとの連携

重点目標と学級・教科経営計画、目標管理シート、校内研究との連動

■学級・教科経営計画

重点目標に基づいた経営計画

■目標管理シート

自己目標の具体的設定、評価

■校内研究

PDCAサイクルで授業改善

学校評価

自己評価（教職員・児童・保護者アンケート等）・学校関係者評価・第三者評価 → 改善・進化